

出会いのサイン

1. はじめに

私は将来、“人と人との関わりやコミュニティを大切にしたい街づくり”をしたいと考えています。幼い頃から、人と会話をする事、人と関わりを持つことが大好きであり、多くのコミュニティを築きました。そのコミュニティ1つ1つがかけがえのない財産だと気付いたこと。大学に入り、様々な社会基盤に関する講義を受ける内、都市計画や街づくりというものにとっても興味を持ったこと。この2つが融合し、この将来の目標にたどり着いたのだと思います。都市や街に人と人との関わりを増やす仕組みや、コミュニティ形成を促進するような仕掛けを考えてみようと思ったことが提案の背景です。

今回、この提案内において、コミュニティという言葉が多く出てきます。コミュニティは、人と街をつなぐ大切なものであり、私はコミュニティを“人と人とがふれ合える場所、時間や気持ちなど何かを共有できる空間”と定義しています。自分の人生を振り返り、コミュニティの概念を考えたとき、言葉にするとこういったものなのではないかと思ったことを定義としました。

また、提案内において、時間や距離の設定をいくつかしました。その設定基準は、不動産に関する講義で教わった人の歩行速度80m/分に基づくものです。

2. 出会いのサインとは

夢のあるアイデアを考えていた時、ふと頭に案内サインが浮かびました。日本でよく見かける案内サインは、動くことのない場所を指しているため、サイン自体も基本的には動きません。また、サインに記載されている情報はあまり更新されることのない情報ばかりであるため、サイン自体に時間性がないように感じてしまいます(図1)(図2)。もし、案内サインが動き、動くものを捉えることができれば。もし、案内サインが常に最新の情報をキャッチし、それを利用者に提供できるものならば。それは、とても面白い機能を持ったものになると考えたことがこのアイデアのきっかけです。



(図1) みなとみらい21にある案内サイン



(図2) JR 横浜駅に隣接する SOGO 付近の案内サイン

そこで、動くものを“コミュニティ”にしようと考えました。コミュニティは、その時々によって違う場所で、違う目的で、違う人たちで構成されており、これもまた動くものだと解釈しました。コミュニティもしくはコミュニティが生まれそうな出来事に案内することで、人と人との関わりが促進されるのではないかと。街の中で人が活発に交流することで、街そのものも更に生き生きし始めるのではないかと。そういったことを想像し、願いながらこのアイデアに“出会いのサイン”という名前をつけました。

3. 出会いのサインの仕組み

出会いのサインはコミュニティや出来事を捉えるため、サイン自体も動くものでないと成り立ちません。そこで、ブルックリンを中心に活動するクリエイティブエージェンシー『BREAKFAST』が提案する最先端の指示標識『Points (図3)』を使用します。Points は、多くのコマンドを有しており (図4)、その時々に応じて欲しい情報や場所に案内してくれるという優れたものです。例えば、食事というコマンドを選択したとします。Points は食事をする場所への案内はもちろんですが、その場所の空席率や評価といった情報も表示してくれます。観光客向けのコマンドもあれば、スポーツイベントの情報表示、企業やエンターテインメントとの連携や Twitter などのインターネットを使用する情報も表示が可能です。



(図3) Points の全体像



(図4) Points にあるコマンド

このような多彩な機能だけでも、とても夢のある機能ですが、出会いのサインと Points のもとある機能を混在させてしまうと、不明瞭な点や様々な機能を含み過ぎたことでかえって分かりづらくなると判断したため、今回は Points のもとある機能は考えず、入れ物だけお借りする形をとり、出会いのサインとして提案したいと思います。

出会いのサインは現段階で、Twitter と連動させることを考えています。Twitter は国内に 3500 万人(2015 年 12 月時点) のユーザーがおり、日本人の 4 人に 1 人は Twitter をしている計算になります。また、^{※1} 月間アクティブ率も 70.2% (2015 年 6 月時点) と非常に高い数字を誇っていることから、活発に出会いのサインを稼働させてくれるだろうと期待しています。私自身も Twitter や LINE、Instagram、facebook など様々な SNS を利用しているのですが、起きた出来事や情報を 1 番手頃につぶやけるのは Twitter ではないかと感じたことも選定した 1 つの理由です。

※1：月間アクティブ率…1 ヶ月間にそのアプリや Web などを利用しているユーザーの割合。ユーザーが日常的にそのサービスを利用しているかを測る指標として使われているが、アクティブ率の定義は運営企業やサービスによって様々ある。

◎Twitter と Points の連動方法

・出会いのサインは、Twitter にある^{※2}ハッシュタグ機能が鍵になっています。出会いのサインを稼働させるには、Tweet をする際、「# Connect」とつぶやき内に入れてもらい、Tweet してもらいます。このハッシュタグが入った Tweet の発信位置から 1 番近い出会いのサインがキャッチし、稼働します。Connect という単語には、つなぐ、結びつけるという意味があり、出会いのサインにぴったりだと思い決定しました。

※2：ハッシュタグ…ハッシュタグとは、#記号と、そのあとに続く文字で構成される文字列のことで、つぶやき内に「#○○」と入れて投稿すると、その記号付きの発言が検索画面などで一覧できるようになり、同じイベントの参加者や、同じ経験、同じ興味を持つ人のさまざまな意見が閲覧しやすくなる機能のこと。

・Tweet 位置から 1 番近い出会いのサインが中心となり、半径 400m 以内にある出会いのサインは連動して稼働するようにします。なるべく多くの人がある Tweet を見ることが出来る環境を整えるため、連動方式を採用しました。

・出会いのサインが Tweet を表示した際、どのくらいの時間表示をするかについては、その Tweet の閲覧数やリツイート数、お気に入り数などで判断します。その Tweet の話題性が高ければ高いほど、長い時間出会いのサインに表示されます。

・出会いのサインを利用してもらう上で、利用者が注意しなければならないことが 2 つあります。1 つ目は、位置情報 ON で Tweet をしてもらうことです。Tweet に位置情報がない場合、まずどこから Tweet しているかを特定できないため、出会いのサインの稼働につながりません。2 つ目は、Tweet に場所を記載してもらうことです。コミュニティを生むための出会いのサインですが、コミュニティは場所があって成り立つものであるため、場所の記載がなければ、コミュニティを生む場へ案内ができないからです。



(図5) 出会いのサインへ向けた Tweet の例



(図6) 出会いのサインの表示例

◎Points の設置方法

- ・出会いのサインは人が多く集まる都市部や観光地に設置したいと思います。人がいなければ出会いのサインは成り立ちませんので、設置当初は試験的に都市部や観光地を選定しました。効果が実証され始めたら地方部にも設置し、多くの人々のコミュニティづくりに役立てたいと考えています。
- ・設置間隔や設置場所については、その土地の地形や人口などが様々であり、稼働率に差が出ると判断した

ことから、具体的な数値や場所は定めていません。しかし、主な設置場所の例として、主要な交差点や広場、公園やランドマーク的役割を持つ建物付近などが有効だと思います。人が多く滞留する場所に設置することで、つぶやきを見ることができる分母を増やすことが狙いです。ベンチのある所や噴水、緑の多くある場所は居心地がよく、人がよく滞留をするので、効果的でしょう。

◎出会いのサインの危険性

・出会いのサインには、最悪な事件に巻き込まれてしまう危険性も潜んでいます。思いつかないような悪用をしてくる人もいるかもしれません。人や街にプラスの効果を与えようと願いつくったこのアイデアが、マイナスの効果を生んでしまってはなりません。そのために必要な対策を十分に考えることが必要になってくるでしょう。

4. 運営方法

出会いのサインの運営主体は、地方自治体と第三者機関の連携で行います。第三者機関として、“街のコミュニティ促進させ隊”といった NPO 法人を立ち上げると効率的に事業が進むのではないかと考えています。しかし、自治体や第三者機関を連携させたとしても収益がなければ事業は衰退してしまうので、出会いのサインにデジタルサイネージのような広告媒体機能を持たせません。対象はその街にある企業や店舗などの営利団体で、対象が PR 活動や宣伝といった営利活動を行えるようにし、その対価として使用料を回収します。

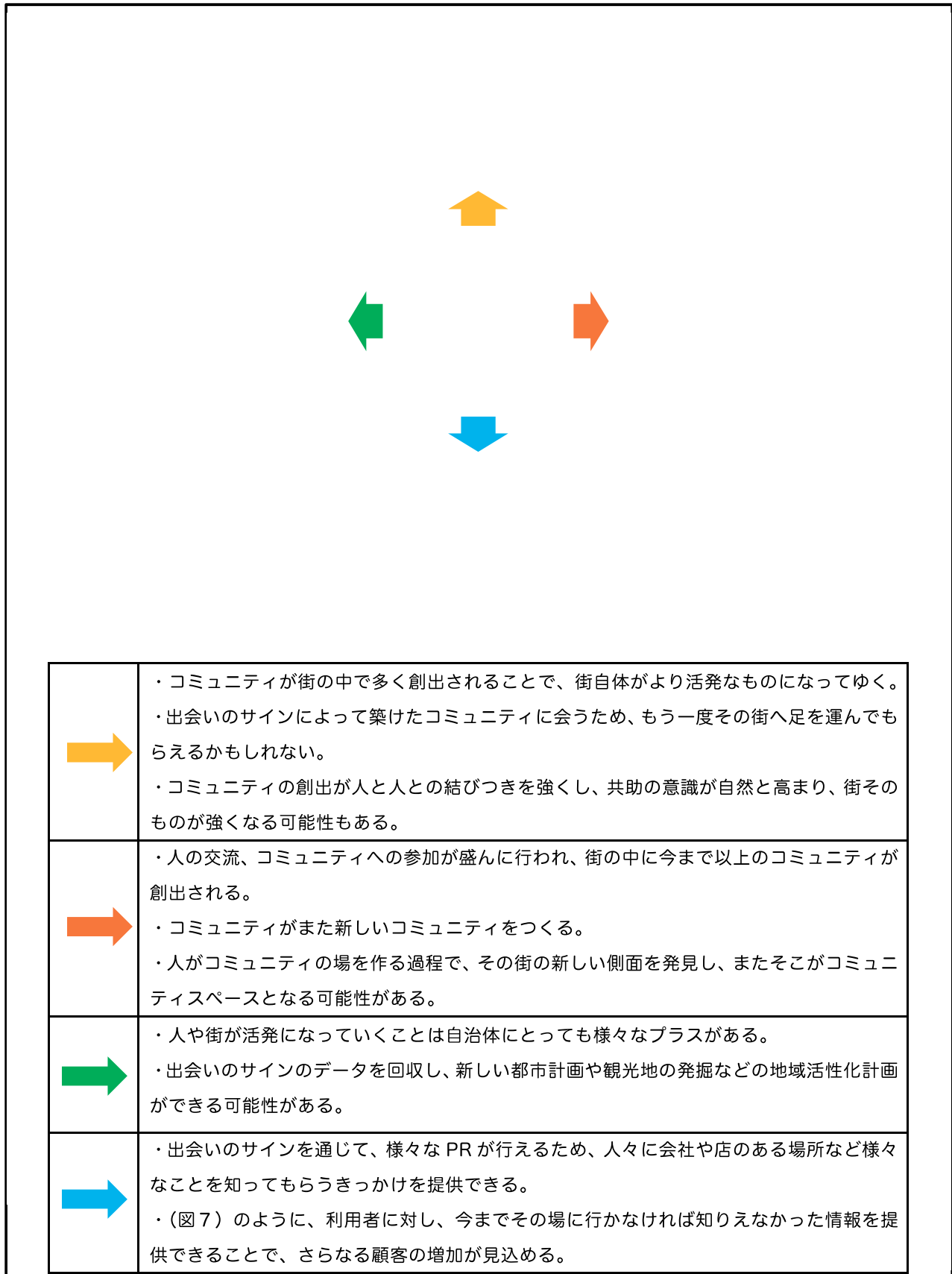
企業や店舗などの営利団体が、出会いのサインを使用するためには、その企業や店舗の Twitter アカウントや位置情報を予め出会いのサインに登録させる方式をとります。登録は無料かつすぐできる仕組みをとることが大切です。使用料は1回のつぶやきで〇〇円といった方式にします。金額は自治体や連携する機関に定めもらうことを考えていますが、50円未満にしたいと個人的に考えています。出会いのサインは、オンタイムの情報をつぶやいてこそ力を発揮するものなので、営利団体でも多くつぶやける環境を整えることが望ましいです。



(図7) 営利団体から出会いのサインへ向けた Tweet 例

5. 出会いのサインから期待される効果

出会いのサインは都市、人やコミュニティ、企業、自治体など多くの方面にプラスの効果をもたらすことが考えられます（図8）。



(図8) 出会いのサインがもたらすメリット

6. あとがき

この出会いのサインという提案を考え始めてから、完成させるまでに約2ヶ月間かかりました。のんびりと進めていたこともありますが、コミュニティという目には見えないものの概念、それに案内することはどのようなメリットがあるのか、また人と街、コミュニティとはどのような関係にあるのか、などを考えていると、なかなか進まない日がありました。文章の構成や仕組みを考える作業はとても大変でしたが、振り返ってみると今できる自分の最大限を提案できたと思い、やって良かったなと大変満足しています。

夢アイデアという場をお借りして、自分の中にある将来の目標や目指したい街などを再確認できたことは、本当に良かったです。これからも、日常の中で空き時間を見つけたら、人と街の関係やこれからの都市とはどうあるべきなのかを少しずつゆっくりと考えていきたいです。

7. 参考文献

<http://breakfastny.com>

<http://tokyodesignweek.jp/designboom/design/002006.html>

<http://gaiax-socialmedialab.jp/post-30833/>

<https://growthhackjournal.com/active-rate/>